

皆鶴姫と難波池

今もなお義経に想いを馳せて
ここに眠る皆鶴姫の美しく
悲しい物語。

時は平安の末、皆鶴姫は二位大納言藤原成道の側室、桂の娘として生まれたが、成長して源義経に出会い恋をするようになった。

その後、奥州に逃れた義経を慕って河東の地までたどりついたが、疲労のあまり病にたおれてしまった。村人たちの手厚い看護で快方にむかったが、ある日難波池に映ったやつれはてた自分の姿を見て驚き悲しみ、思いあまって池に身を投げてしまった。皆鶴姫十八歳の春であった。

ロマン伝説のまち河東



●皆鶴姫群



●難波池